

株式会社ジェイコム湘南・神奈川 かながわセントラル局

2019 年度 放送番組審議会 議事録

2019 年度の放送番組審議会は、2020 年 2 月 28 日(金)にかながわセントラル局 3 階会議室で開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

—ご出席—

網代 宗四郎 様 伊波 武則 様 栗原 茂明 様 星野 俊江 様

事業者側から局の現況報告、及び J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(網代会長による進行)

◆地域情報の取り上げ方について

委員 これからは、ますます女性が活躍する。例えば、子ども食堂などの子育て支援は行政がかかわらないケースが多い。こういう取り組みを取材してほしい。

事業者 これまで子ども食堂は取り上げたことがなかった。ぜひ情報を寄せていただき、放送したい。

委員 海老名はプロスポーツ選手を多く輩出している。地元出身の選手を取り上げることで視聴者も身近に感じ、楽しめるのではないか。

事業者 「ジモスポかながわ・まちだ」が昨年 12 月で一旦休止となっているが、デイリーのゲストコーナーなどでスタジオ生出演していただき紹介できる。ぜひ、進めていきたい。

◆企画番組・特別番組について

委員 高齢者をターゲットとしている番組が少ないように思う。地域活動などを紹介してはどうか。

事業者 J:COM チャンネルでは高齢者をターゲットとした番組の制作はないが、J:COM

テレビでは「全力で、元気にコミット」という、高齢者を対象とした体操の番組があり、著名な体操講師が各地を訪問している。こういった取材をきっかけに、その地域で継続的に体操が続くなどの仕掛けができれば面白いと思う。

委員 地域の歴史を深掘り出来る番組があっても良い。地元の人知らないような歴史があるので、視聴者も興味を持つと思う。

事業者 歴史番組は(監修など)難しい点もあるが、例えば地域で歴史を研究している人に解説していただきながら紹介するなどは出来ると思う。前向きに検討したい。

委員 主婦や高齢者をターゲットとするなら視聴者参加型の番組はどうか。ユーチューバーなどが自分で番組を作り、放送する時間があっても良いのでは。FM 大和では地域活動やお店を紹介する番組を市民が制作し、有料で放送している。出演者は幅広いネットワークを持つ人が多いので、人と人のつながりでテレビ視聴も良くなるのではないか。

事業者 昨年も同様の提案をいただいたが、実現に至っていない。検討を続けたい。

委員 「オールナイトニッポン TV」のように、地元 FM 局の人気番組のテレビ版を作ってはどうか。企画等はラジオのままであれば取り組みやすい。ラジオのリスナーをテレビ視聴者として確保できる。

事業者 ラジオとのメディアミックスはおもしろいと思う。公開収録などすれば、テレビとラジオの相乗効果も期待できる。

委員 「空から紀行」を楽しみに見ているが、ナレーションが入るとより良い。外に出られない人も神奈川各地の空撮を楽しめると思う。

事業者 制作時間なども考慮しなくてはいいけないが、検討したい。

委員 介護や認知症で悩む人に向けた番組は作れないか。これからさらに大きな課題となる。

事業者 確かに今後の大きな課題であると認識しているが、この問題は地域性の課題というより、社会全体の問題のため、地域情報を扱う J:COM チャンネルでどのような取り上げ方が出来るのか検討したい。

◆災害時の放送について

委員 昨年台風 19 号の際は NHK を見ており、J:COM でこのように災害放送していることを知らなかった。地震と違い台風は事前にわかる。災害が起きてからではなく、起きる前の備え等、計画的に周知できないか。そうすることで認知につながり、災害時にはまず J:COM を見ようと思うのではないか。

事業者 現在も台風前には注意喚起を行うようにしている。また 3.11 に関連し、毎年防災特集も放送しているが、改めて各エリアで見直しが進んでいるハザードマップの紹介や避難に関する警戒レベルの説明などを企画して放送したい。

◆その他の要望・意見等について

委員 アプリやネットを使わない人たちにも、当日のテレビ放送の内容が分かるように、新聞のテレビ欄の活用はできないか。

事業者 現在、新聞テレビ欄への掲載はしていない。番組内容はテレビの EPG(電子番組表)で確認することができる。番組によってはツイッターなどでも紹介している。

委員 今の子どもたちはテレビではなく、スマホばかり。そういう子どもたちへ、どうって発信力を強めていくのか。

事業者 まずは学校などの取材で子どもたちがテレビに出演する環境を作りことで、「自分がテレビに出ている。お友だちが出ている」という興味からコミュニティチャンネルを見てもらう裾野を広げたい。ただ、やはり子どもたちのテレビ離れは現実なので、スマホアプリ「ど・ろーかる」に若者をターゲットとしたコンテンツを配信したり、テレビではなく、アプリだけの配信ということも考えていかなければいけない。

会長 委員の皆さまからのご意見、活発な審議ありがとうございました。

以上